

ディーラーマニュアル

ロード	MTB	トレッキング
シティツーリング/ コンフォートバイク	アーバンスポーツ	E-BIKE

NEXUS

INTER-5E

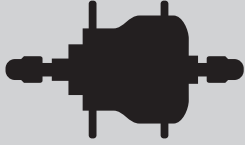

- SG-C7000-5
- SL-C7000-5
- CS-C7000
- SM-C7000-5

目次

ディーラーマニュアル対応モデル一覧	3
重要なお知らせ	4
安全のために.....	5
使用工具一覧.....	11
取付け	13
スプロケットのハブへの取付け	13
カセットジョイントのハブへの取付け	14
インターMブレーキのハブ本体への取付け.....	16
ハブのフレームへの取付け.....	16
ディスクブレーキローターの取付け.....	20
変速用ケーブルの取付け	21
カセットジョイントへの取付け	22
調整.....	29
カセットジョイントの調整方法.....	29
メンテナンス.....	33
フレームから後車輪を外すときの変速用ケーブルのはずし方	33
インナーケーブルの交換	34
内部一式ユニットのオイルメンテナンス	36

ディーラーマニュアル対応モデル一覧

このディーラーマニュアルは以下のモデルを対象としております。

部品／シリーズ		INTER-5E
内装ハブギア 	コースターブレーキ + ディスクブレーキ	-
	ディスクブレーキ	SG-C7000-5D
	コースターブレーキ	SG-C7000-5C
	インターMブレーキ	SG-C7000-5R
	Vブレーキ	SG-C7000-5V
シフティングレバー 	レボシフトレバー	SL-C7000-5

重要なお知らせ

- ディーラーマニュアルは自転車安全整備士、自転車技士など専門知識を有する方を対象としています。専門知識のないユーザーがディーラーマニュアルを参照して、部品を取付けしないでください。記載されている内容に不明な点がある場合は絶対にご自身で作業しないでください。購入された販売店、または代理店へご相談ください。
- 各製品に付属している取扱説明書も併せてよくお読みください。
- ディーラーマニュアルに書かれていない製品の分解、改造はおこなわないでください。
- 全ての取扱説明書・ディーラーマニュアルはウェブサイト (<http://si.shimano.com>) でご覧いただけます。
- 地域のルールや法律に従って製品をご使用ください。

安全のため、必ずこのディーラーマニュアルをよくお読みの上、正しくご使用ください。

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

危険

「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。

警告


「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

安全のために

警告

- 製品を取付ける際は、必ず取扱説明書などに示している指示を守ってください。
その際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。ボルトやナットなどが緩んだり、破損しますと突然に転倒して重傷を負う場合があります。
また、調整が正しくない場合、不具合が発生し、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
-  部品の交換など、メンテナンス作業中は、安全メガネまたはゴーグルを着用し、眼を保護してください。
- ディーラーマニュアルはよくお読みになった後、大切に保管してください。

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

- 自転車は、製品によって取扱いが多少異なることがあります。
したがって、ブレーキレバーへの入力や自転車の操作特性などを含め、個々の自転車のブレーキ系統の適切な操作を充分理解し慣れるようにしてください。ブレーキ系統の操作が適切でないと自転車のコントロールを失い、転倒して大けがをする可能性があります。適切な操作については、自転車専門店にご相談いただき、また自転車の取扱説明書もよくお読みください。ご自分の自転車にお乗りになって、ブレーキ操作などを練習していただくことも大切です。

自転車への組付け、整備に関する事項

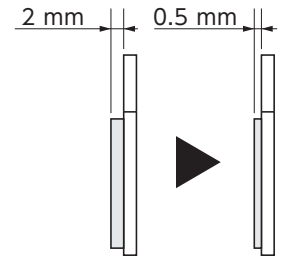
- ブレーキアームをフレームに固定するときは、チェーンステーのサイズに合ったアームクリップをクリップボルトとクリップナットで指定の締付けトルクでしっかりと締付けてください。
クリップナットは、ナイロンインサートロックナット（緩み止めナット）を使用してください。クリップボルト、クリップナットおよびアームクリップはシマノ製をお勧めします。
ブレーキアームのクリップナットが外れたり、クリップボルトまたはアームクリップが破損すると、ブレーキアームが回転し突然ハンドルがとられたり、車輪がロックして転倒し大けがをすることがあります。
- フレームにハブを取付けるときは、所定の回り止めワッシャーを必ず左右に取付け、ハブナットを規定トルクで確実に締付けて固定してください。回り止めワッシャーを片側だけしか取付けなかったり、ハブナットの締付けが不完全であると、回り止めワッシャーが外れてハブ軸が回転し、カセットジョイントが回り、不意にハンドルが変速ケーブルで引張られて回るなど、重大事故につながるものになります。

■ディスクブレーキローターに関して

- 回転中のディスクブレーキローターには触れないでください。ディスクブレーキローターに指が巻き込まれるなど、重傷を負うおそれがあります。



- キャリパー、ディスクブレーキローターはブレーキ操作により高温になりますので、乗車中、あるいは下車後すぐに触れないでください。やけどを負うおそれがあります。
- ディスクブレーキローター、ブレーキパッドに油脂が付かないように注意してください。ブレーキが効かなくなって危険です。
- パッドに油脂が付いた場合は販売店または代理店へご相談ください。ブレーキが効かなくなって危険です。
- ブレーキ操作時に音が発生したらパッドが使用限界まで摩耗した可能性があります。
ブレーキシステムの温度が十分に下がったことを確認してから、パッドの厚みが0.5 mm以上あることを確認してください。または販売店、代理店へご相談ください。



- ディスクブレーキローターに割れ、変形が生じた場合はただちに使用を中止し、販売店または代理店へご相談ください。
- ディスクブレーキローターが摩耗して厚みが1.5 mm以下になるかアルミ面が出てきた場合、ただちに使用を中止し販売店または代理店へご相談ください。ディスクブレーキローターが破損し転倒する可能性があります。

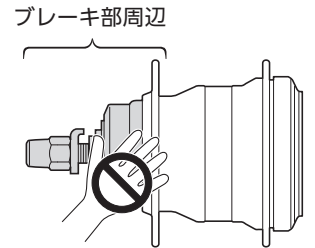
■コースターブレーキハブに関して

- 正爪のフォークエンドを使用する際は、チェーンの緩み防止のため、チェーン引きをご使用ください。

注意

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

- シフティングレバーは必ず1段ずつ変速操作してください。その際、ペダルの踏力は弱い状態で行ってください。強くペダルを踏んでいる時に、無理やりシフティングレバーを操作したり、一気に多段変速したりすると、足がついていかにペダルから足を踏み外し、転倒事故につながる場合があります。
また、シフティングレバーを軽いギアへ一気に変速させるとアウターケーシングがシフティングレバーから飛び出す場合があります。
変速が終わると元に戻りますので機能への影響はありません。
- ブレーキをひんぱんに使用した場合、ブレーキ部周辺が高温になる場合があります。走行後しばらく(30分位)は、ブレーキ部周辺に手をふれないよう注意してください。



■コースターブレーキ仕様に関して

- 長い下り坂でブレーキを連続して使用されますと、ブレーキ内部が高温になりブレーキの効きが弱くなったり、内部のグリスがなくなりブレーキの効きが急に強くなるなどの異常が発生する場合があります。
- ならし走行をして、コースターブレーキの制動力の確認をしてください。

使用上の注意

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

- ペダルを軽く踏みながら変速ができますが、変速したあとで確実な変速動作のため、ハブ内部の爪とラチェットの間でまれに音が発生する場合があります。
- 内装ハブは完全防水ではありません。ハブが浸水するような場所でのご使用、高圧洗浄は内部の錆の原因となりますのでお控えください。
- ハブの分解は行わないでください。分解が必要だと思われる場合は購入された販売店にご相談ください。
- 下記の現象はいずれも内部変速構造によるものであり、内部の故障ではありません。

発生する現象	ハブの種類		発生するギア位置
	コースターブレーキ用	ローラーブレーキ/ Vブレーキ用	
ペダルを回転している時に音が発生する。	×	-	1速以外の全速
自転車をうしろに押した場合に音が発生する。	×	×	1速以外の全速
変速をサポートする機構が内蔵されており、変速時にサポート機構が動いた場合音や振動が発生する。	×	×	全速
ギアの位置によって変速の感触が違う場合がある。	×	×	全速
走行中にペダルの回転を止めると音が発生する。	×	-	全速

- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の経年劣化は保証いたしません。

■コースターブレーキ仕様に関して

- 車輪の回転が重くなった場合は、ブレーキシューの交換またはグリスアップが必要です。購入された販売店にご相談ください。

自転車への組付け、整備に関する事項

- INTER-5Eには、CS-C7000のみ取付けられます。
また、リアに対するフロントチェーンリングのギヤ比は1.4です。
- 製品の性能を維持するために、使用開始から2年間に一度（頻繁に乗車される場合は5,000 kmごと）を目安に、販売店または代理店で、内部のグリスアップなどのメンテナンスを推奨します。またメンテナンスの際は、シマノ内装ハブ専用グリスまたは、オイルキットを推奨します。専用グリス・オイルキットを使用されない場合、変速機が正常に作動しないなどのトラブルの原因となる可能性があります。
- 車輪の回転が重くなった場合は、グリスアップを行ってください。
- ギアは定期的な中性洗剤で洗浄してください。またチェーンを中性洗剤で洗浄し注油することも、ギアおよびチェーンの寿命を延ばす効果があります。
- チェーン飛びが発生するようになった場合は、ギアとチェーンを交換してください。

■コースターブレーキ仕様に関して

- スポークは、6本組または8本組で編まれた車輪を使用してください。ラジアル組の車輪は使用できません。スポークや車輪の破損またはブレーキ時に音鳴りの発生するおそれがあります。
- 車輪の回転が重くなった場合は、ブレーキシューの交換またはグリスアップを行ってください。
- ブレーキシューには専用グリスのみを使用し、オイルキット使用の際には、ブレーキシューを取外して、オイルがつかないようにご注意ください。

手順の説明を主体としていますので、製品イメージが異なる場合があります。

トルク値換算表







N・mをkgf・cmに換算する際は、以下の表を参照してください。

N・m	kgf・cm	N・m	kgf・cm	N・m	kgf・cm	N・m	kgf・cm
0.1	1	20	200	50	500	80	800
0.2	2	21	210	51	510	81	810
0.3	3	22	220	52	520	82	820
0.4	4	23	230	53	530	83	830
0.5	5	24	240	54	540	84	840
0.6	6	25	250	55	550	85	850
0.7	7	26	260	56	560	86	860
0.8	8	27	270	57	570	87	870
0.9	9	28	280	58	580	88	880
1	10	29	290	59	590	89	890
2	20	30	300	60	600	90	900
3	30	31	310	61	610	91	910
4	40	32	320	62	620	92	920
5	50	33	330	63	630	93	930
6	60	34	340	64	640	94	940
7	70	35	350	65	650	95	950
8	80	36	360	66	660	96	960
9	90	37	370	67	670	97	970
10	100	38	380	68	680	98	980
11	110	39	390	69	690	99	990
12	120	40	400	70	700	100	1,000
13	130	41	410	71	710		
14	140	42	420	72	720		
15	150	43	430	73	730		
16	160	44	440	74	740		
17	170	45	450	75	750		
18	180	46	460	76	760		
19	190	47	470	77	770		
		48	480	78	780		
		49	490	79	790		

使用工具一覽

使用工具一覧

製品の取付け、調整、メンテナンスには下記の工具が必要です。

工 具		工 具		工 具	
	3 mm六角レンチ		プラスドライバー[#1]		TL-S700-B
	10 mmスパナ		TL-LR10		モンキレンチ

取付け

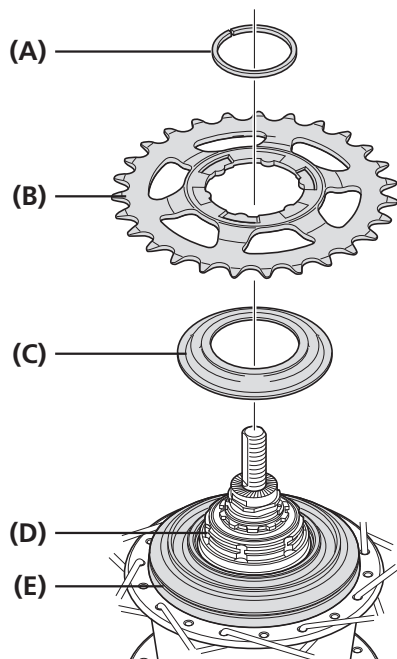
取付け

■ スプロケットのハブへの取付け

右防水キャップCをイラストの向きにし、駆動体に取り付けます。

次にスプロケットをセットし、スナップリングで固定します。

仕様	対応スプロケット	
	表組	裏組
INTER-5E	27T	27T



- (A) スナップリング
- (B) スプロケット
- (C) 右防水キャップC
- (D) 駆動体
- (E) 右防水キャップA

■ カセットジョイントのハブへの取付け

1

図のように駆動体キャップを駆動体に取付けます。
駆動体キャップの向きに注意してください。

(z) 駆動体側

(A) 駆動体キャップ
(B) 駆動体
(C) スプロケット
(D) スナップリング

2

カセットジョイントのプーリーを矢印の方向に回し、プーリーとブラケットの●マーク (赤色) を一致させます。

(z) 一直線

(A) プーリー
(B) ブラケット

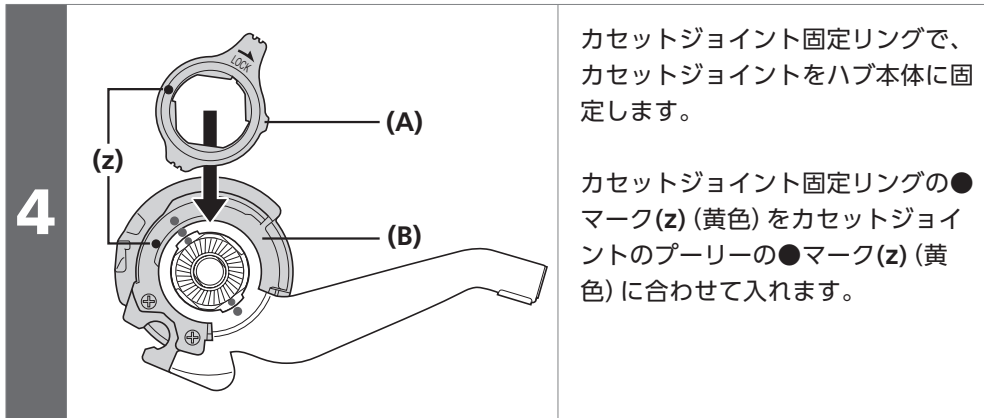
3

カセットジョイントの●マーク(z) (赤色) をハブ本体右側のマーク(z) (●マーク (赤色)) に合わせてセットします。

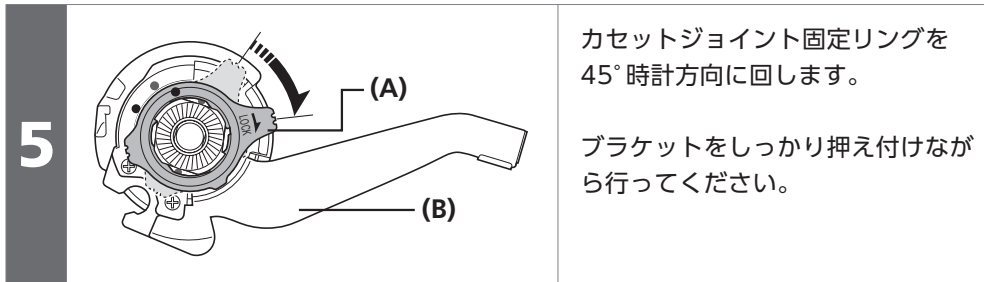
(A) カセットジョイント

取付け

▶ カセットジョイントのハブへの取付け

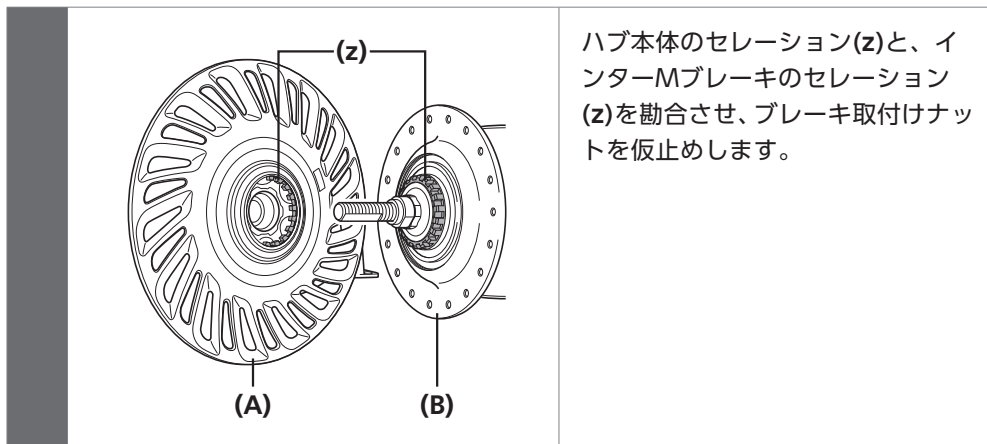


- (A) カセットジョイント固定リング
(B) プーリー



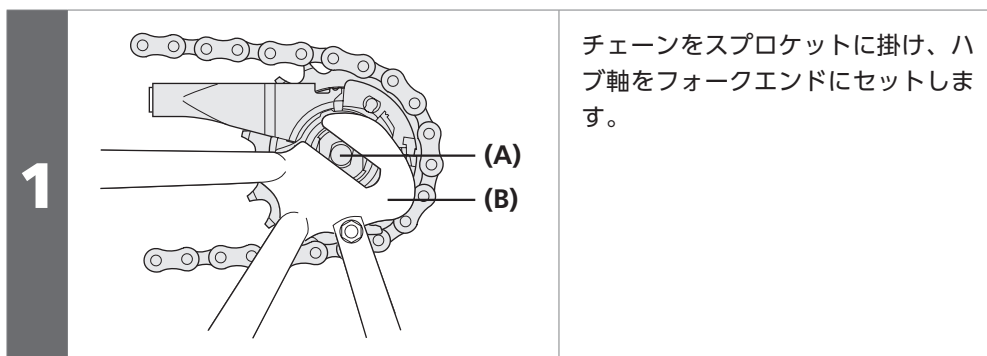
- (A) カセットジョイント固定リング
(B) ブラケット

■ インターMブレーキのハブ本体への取付け



- (A) インターMブレーキ
- (B) ハブ本体

■ ハブのフレームへの取付け

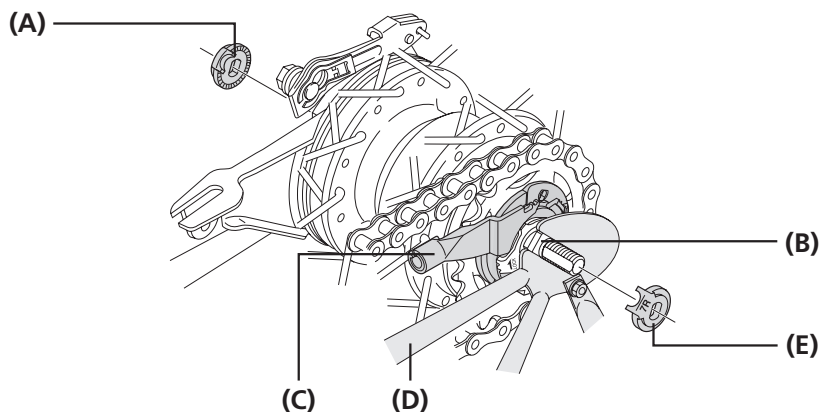


- (A) ハブ軸
- (B) フォークエンド

1

ハブ軸の右側と左側に回り止めワッシャーをセットします。

このとき、フォークエンドの溝に、回り止めワッシャーの突起部が入るように、カセットジョイントを回し、チェーンステアーとほぼ平行に取付けます。

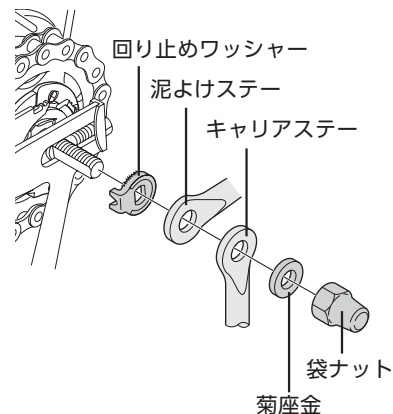


2

- (A) 回り止めワッシャー (左用)
- (B) フォークエンドの溝
- (C) カセットジョイント
- (D) チェーンステアー
- (E) 回り止めワッシャー (右用)

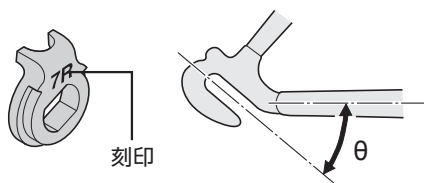
注意

ハブ軸に泥よけステアーなどを取付けるときは、下図の順にセットします。



TECH TIPS

- 突起部をフォークエンド側にセットします。
- 突起部をフォークエンドの溝に確実に入るように、ハブ軸の前側または後側に入れます。
- 回り止めワッシャーは、フォークエンドの形状にあったものをご使用ください。なお回り止めワッシャーには、それぞれ右用と左用があります。

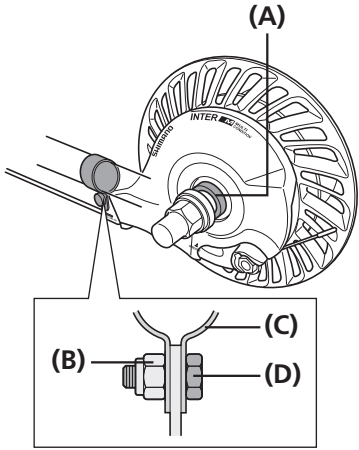


フォークエンド	回り止めワッシャー		
	刻印/カラー		サイズ
	右用	左用	
逆爪	5R/イエロー	5L/ブラウン	$\theta \leq 20^\circ$
	7R/ブラック	7L/グレー	$20^\circ \leq \theta \leq 38^\circ$
正爪	6R/シルバー	6L/ホワイト	$\theta = 0^\circ$
正爪 (全ケース)	5R/イエロー	5L/ブラウン	$\theta = 0^\circ$
ストレートドロップ	8R/ブルー	8L/グリーン	$\theta = 60^\circ - 90^\circ$

注意：ストレートドロップ：コースター仕様は除く

インターMブレーキ仕様の場合

2



(A) インターMブレーキのブレーキアームを、アームクリップでチェーンステーに取付けます。

その後、クリップボルトとクリップナットを軽く締めて仮止めします。

- (A) ブレーキ取付ワッシャー
(手で挿入)
- (B) クリップナット
- (C) アームクリップ
- (D) クリップボルト
(M6×16 mm)

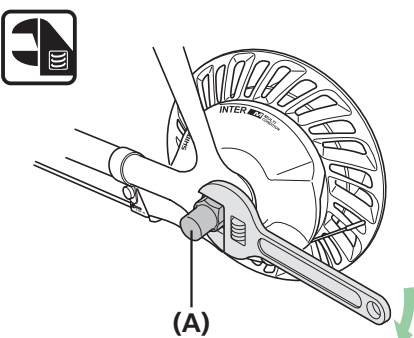
注意

ブレーキユニットが、ハブ本体にブレーキ取付ワッシャーで確実に固定されていることを確認してください。

**TECH TIPS**

ハブ固定ナットが袋ナットの場合は、フォークエンドの幅が7 mm以上あるフレームをご使用ください。

3



(A) チェーンのたるみを取り、車輪をフレームに袋ナットで確実に固定します。

- (A) ハブ固定ナット

締付けトルク

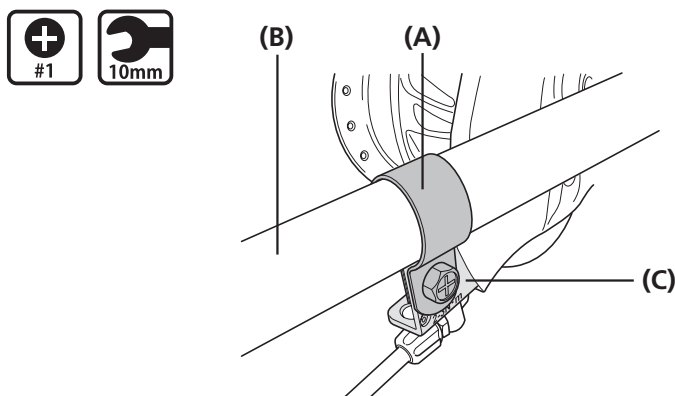
30 - 45 N·m

注意

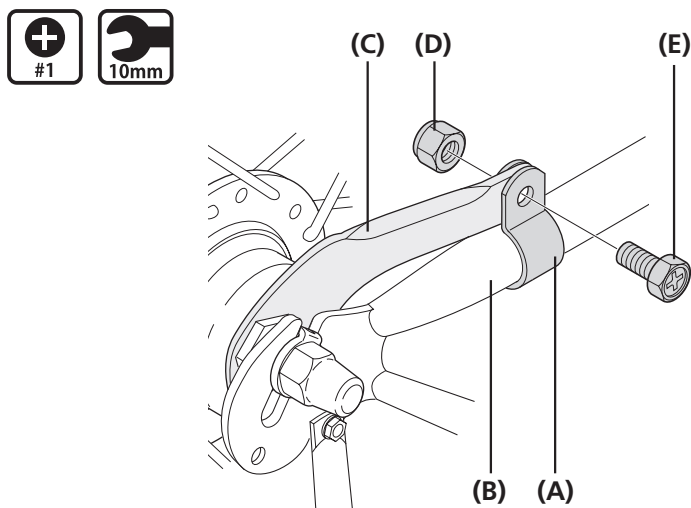
車輪がフレームに、ハブ固定ナットで確実に固定されていることを確認してください。

ブレーキアームを、チェーンステーにアームクリップで確実に固定します。

ブレーキアームが、アームクリップでチェーンステーにしっかりと固定されていることを確認してください。



コースターブレーキ仕様の場合



- (A) アームクリップ
- (B) チェーンステー
- (C) ブレーキアーム
- (D) クリップナット
- (E) クリップボルト (M6×16 mm)

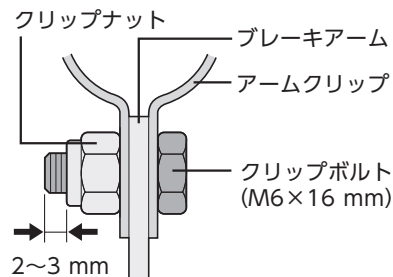
締付けトルク	
#1	2 - 3 N·m
10mm	

警告

- ブレーキアームをフレームに固定するときは、チェーンステーのサイズに合ったアームクリップをクリップボルトとクリップナットで指定の締付けトルクでしっかりと締付けてください。
- クリップナットは、ナイロンインサートロックナット (緩み止めナット) を使用してください。
- クリップボルト、クリップナットおよびアームクリップはシマノ製をお勧めします。
- ブレーキアームのクリップナットが外れたり、クリップボルトまたはアームクリップが破損すると、ブレーキアームが回転し突然ハンドルがとられたり、車輪がロックして転倒し大けがをすることがあります。

注意

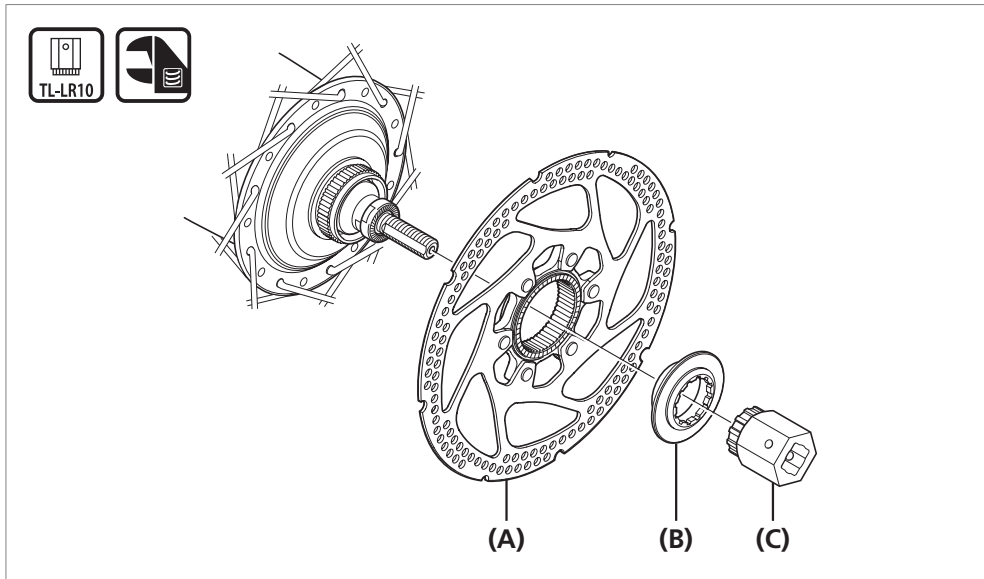
- 取付け不良は、ブレーキ性能が悪くなります。取付けのときは、充分注意してください。
- ブレーキアームに無理な力を加えて固定すると、音鳴りがしたり車輪の回転が重くなります。
- アームクリップを取付けた後、クリップボルトがクリップナットの端面から約2~3 mm出ていることを確認してください。



- ご使用になる前に、ブレーキの効きおよび車輪がスムーズに回ることを必ず確認してください。

■ ディスクブレーキローターの取付け

センターロックタイプ



- (A) ディスクブレーキローター
- (B) ディスクブレーキローター取付けロックリング
- (C) TL-LR10

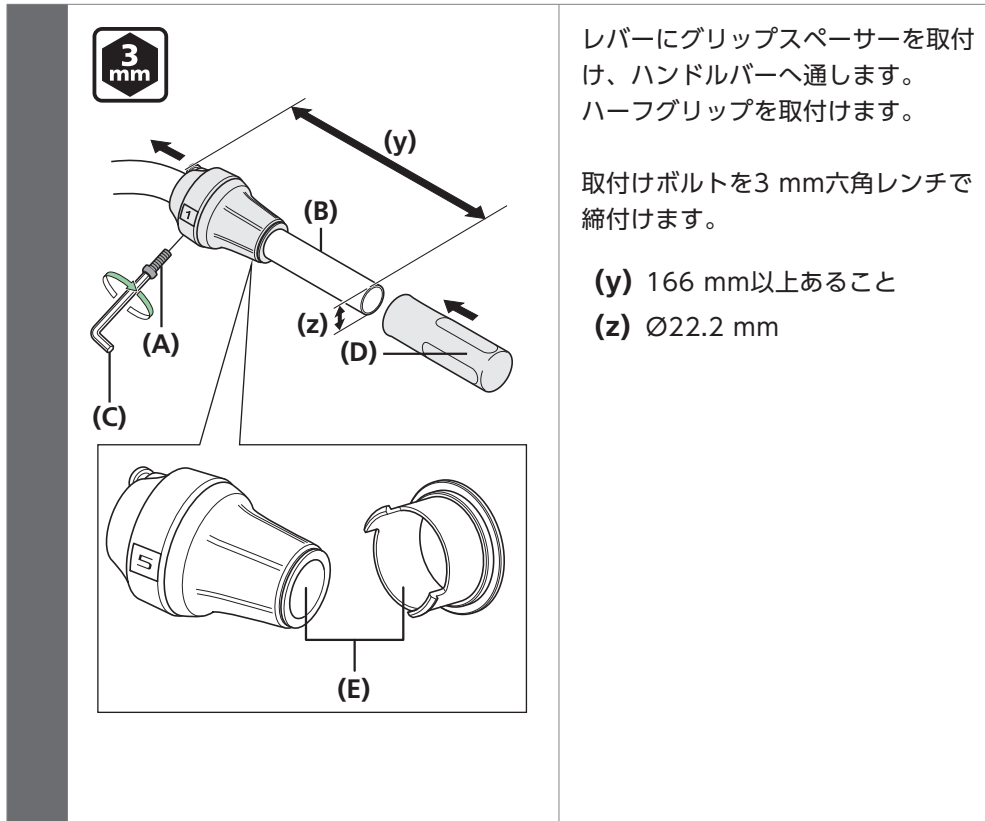
締付けトルク



40 N·m

レバーの取付け

図のようにレバーをセットします。



レバーにグリップスペーサーを取付け、ハンドルバーへ通します。ハーフグリップを取付けます。

取付けボルトを3 mm六角レンチで締付けます。

(y) 166 mm以上あること

(z) $\varnothing 22.2$ mm

- (A) 取付けボルト
- (B) ハンドルバー
- (C) 3 mm六角レンチ
- (D) ハーフグリップ
- (E) グリップスペーサー

締付けトルク



2 - 2.5 N·m

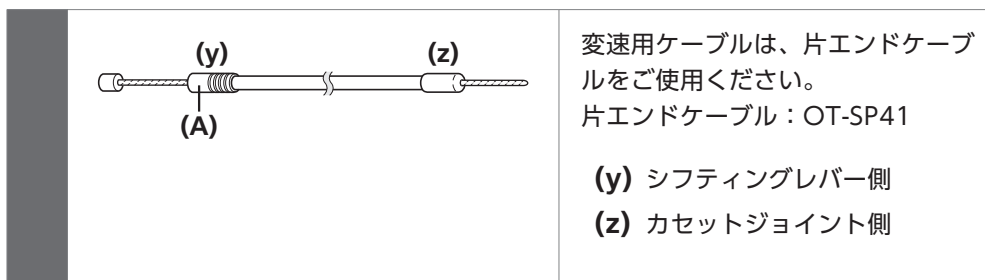


TECH TIPS

- シマノハーフグリップを使用の場合は、ハンドルバーのストレート部が166 mm以上あること。なお、レボシフトレバーはこのストレート部にセットします。
- レボシフトレバーとハーフグリップの間に、0.5 mmのすき間をあけます。

■ 変速用ケーブルの取付け

インナーケーブルの交換方法はメンテナンスの項目を参照ください。



変速用ケーブルは、片エンドケーブルをご使用ください。
片エンドケーブル：OT-SP41

(y) シフティングレバー側

(z) カセットジョイント側

- (A) シールドアウターキャップ

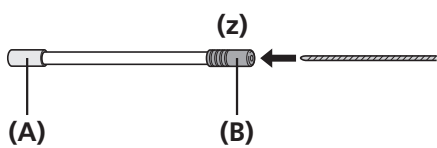
注意

シフティングレバー側に、必ずシールドアウターキャップがくるようにしてください。

■ カセットジョイントへの取付け

CJ-C7000-5の場合

1



インナーケーブルをOT-SP41アウターケーシングの樹脂キャップ側に通します。

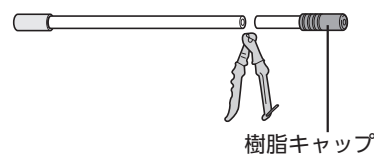
(z) レバー側

- (A) アルミキャップ
- (B) 樹脂キャップ

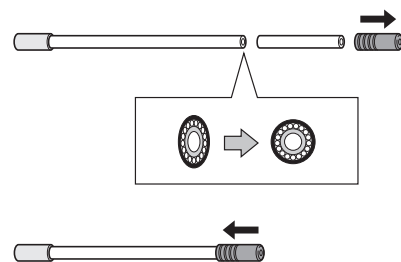


アウターケーシングの切断

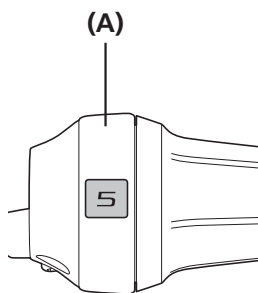
アウターケーシングを切断する場合は、樹脂キャップ側をキャップを付けた状態で切断します。



その後、切断面を真円に整え、樹脂キャップを取付けます。



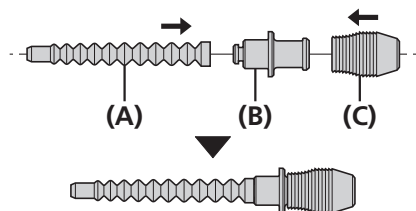
2



SL-C7000-5を5にセットします。

- (A) レボシフトレバー

3



ラバーベローズ、ラバーカバー付きの場合、アウター受けに、ラバーカバーとラバーベローズを取付けます。

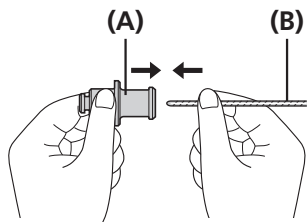
- (A) ラバーベローズ
- (B) アウター受け
- (C) ラバーカバー

4

インナーケーブルに付着しているグリスを拭き取ります。

注意

インナーケーブルは新しいものを使用し、先端をカットしたものは使用しないでください。

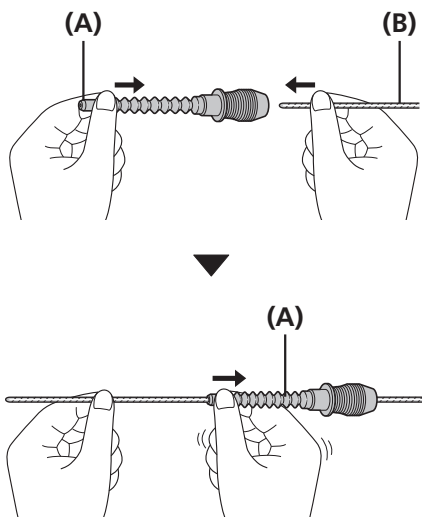


アウター受けにインナーケーブルを通してセットします。

- (A) アウター受け
- (B) インナーケーブル

5

ラバーベローズ、ラバーカバー付き



ラバーベローズ、ラバーカバー付きの場合、ラバーベローズの先端をもって、インナーケーブルを入れます。ラバーベローズをすべらせてセットします。

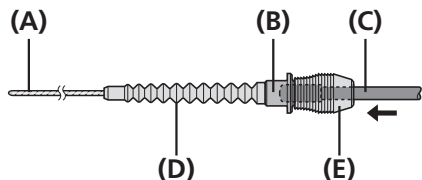
- (A) ラバーベローズ
- (B) インナーケーブル

注意

このとき、インナーケーブルの先端で、ラバーベローズを突き破らないように注意してください。

6

ラバーベローズ、ラバーカバー付き



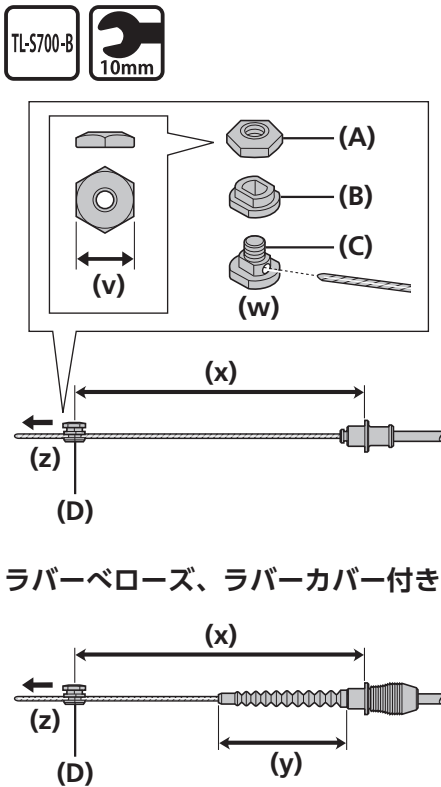
アウターケーシングをアウター受けにセットします。アウターケーシングは、アウター受けの当りまで確実に押込んでください。

- (A) インナーケーブル
- (B) アウター受け
- (C) アウターケーシング

ラバーベローズ、ラバーカバー付きの場合、アウターケーシングをラバーカバーへ挿入して、アウター受けにセットします。アウターケーシングは、アウター受けの当りまで確実に押込んでください。

- (A) インナーケーブル
- (B) アウター受け
- (C) アウターケーシング
- (D) ラバーベローズ
- (E) ラバーカバー

7



アウターケーシングの端が、シフティングレバーのケーブル調整ボルトに確実に納まっていることを確認した後、インナーケーブルに、インナー固定ボルトユニットを取付けます。

- (v) 10 mm
- (w) インナーケーブルを穴に通す
- (x) 145 mm
- (y) 63 mm以下
- (z) インナーケーブルを引張った状態で固定します

- (A) インナー固定ナット(黒色)
- (B) インナー固定ワッシャー(黒色)
- (C) インナー固定ボルト(黒色)
- (D) インナー固定ボルトユニット

締付けトルク



3.5 - 5.5 N·m

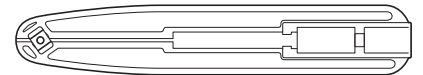
注意

このインナー固定ボルトユニットは、以下に準じて使用してください。
 使用可： CJ-S700/CJ-C7000-8/
 CJ-C7000-5
 使用不可： CJ-NX10/CJ-NX40/
 CJ-8S20/CJ-8S40

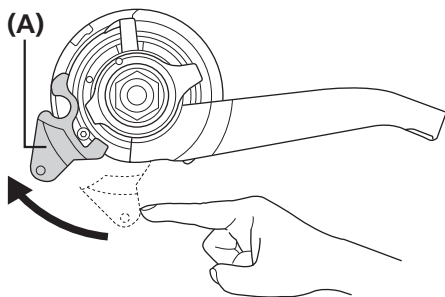


TECH TIPS

インナー固定ボルトユニット取付けの際はセッティングツールTL-S700-Bをご使用ください。



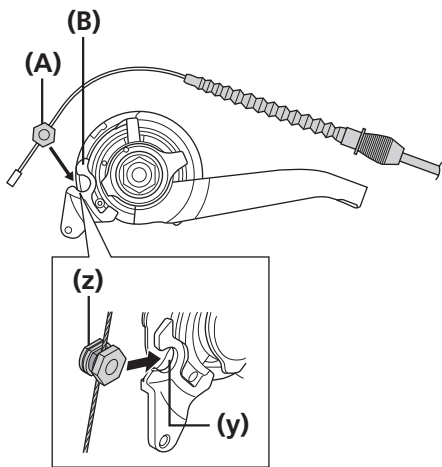
8



プーリーのレバーを時計回りに押ししてください。
 この後の9・11の工程はこの状態のまま作業してください。

- (A) プーリーのレバー

9

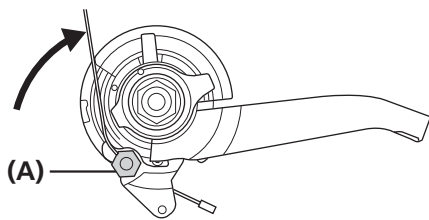


ケーブルをカセットジョイントのプーリーまで回し、インナー固定ナットを外側（フォークエンド側）に向け、プーリーの切欠き部 (y) に、インナー固定ワッシャーの二面幅 (z) 部を入れます。

(A) インナー固定ナット

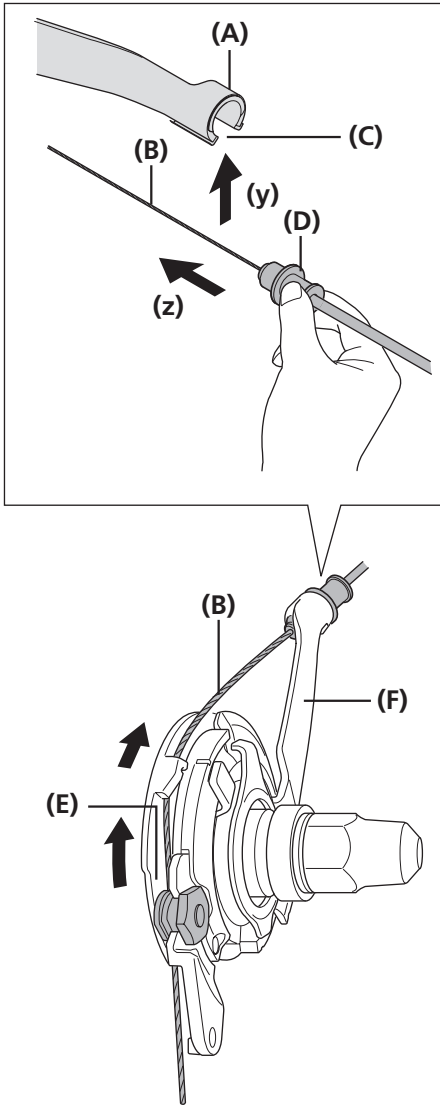
(B) プーリー

10



ケーブルを反時計方向に60°回して、フック部にセットします。

(A) フック部

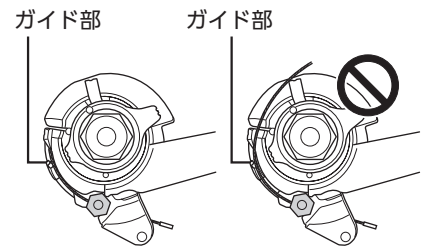


インナーケーブルをプーリーに図のようにセットし、カセットジョイントのブラケットのスリットに、インナーケーブルを入れ(y)、アウター受け体をカセットジョイントのアウター受けに確実にセットします(z)。

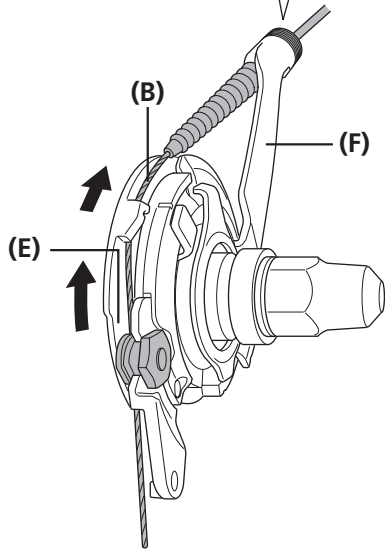
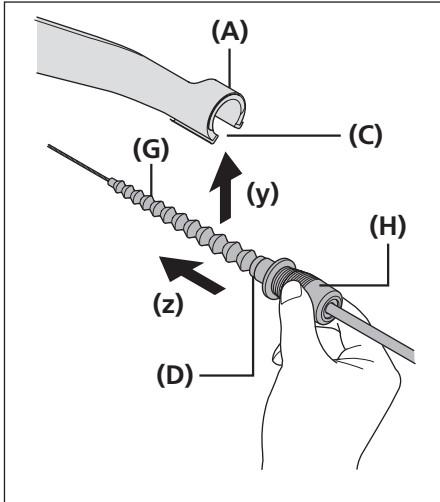
- (A) アウター受け
- (B) インナーケーブル
- (C) スリット
- (D) アウター受け体
- (E) プーリー
- (F) ブラケット

注意

インナーケーブルがプーリーのガイド部に正しく納まっていることを確認してください。



ラバーベローズ、ラバーカバー付き

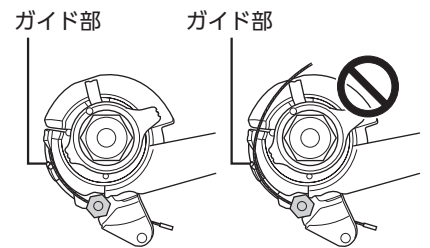


インナーケーブルをプーリーに図のようにセットし、ラバーカバーを持って、カセットジョイントのブラケットのスリットに、インナーケーブルのラバーベローズを入れ(y)、アウター受け体をカセットジョイントのアウター受けに確実にセットします(z)。このとき、ラバーベローズを傷つけないよう注意してください。

- (A) アウター受け
- (B) インナーケーブル
- (C) スリット
- (D) アウター受け体
- (E) プーリー
- (F) ブラケット
- (G) ラバーベローズ
- (H) ラバーカバー

注意

インナーケーブルがプーリーのガイド部に正しく納まっていることを確認してください。

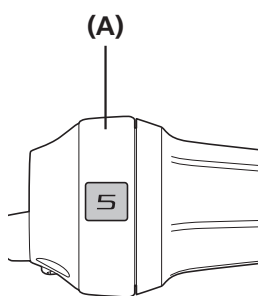


調整

調整

■ カセットジョイントの調整方法

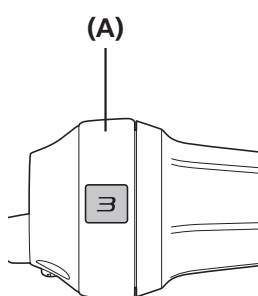
1



SL-C7000-5を5にセットします。

(A) レボシフトレバー

2



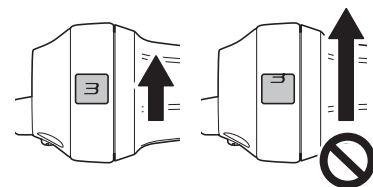
SL-C7000-5を3にセットします。

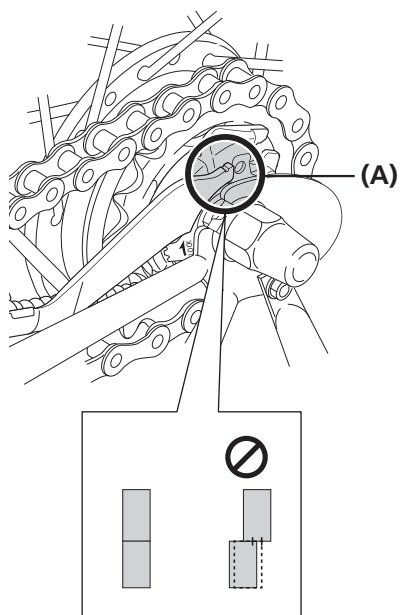
(A) レボシフトレバー

注意

セットする際にはオーバーシフトさせないよう、ゆっくりと勢いをつけずにセットしてください。

オーバーシフトさせてセットした場合、セットラインが本来の位置まで戻らず、セットライン合わせが、正しい位置で行われない可能性があります。(手順3参照)



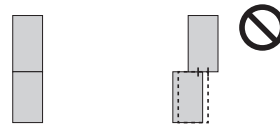


カセットジョイントのブラケットと、プーリーのセットライン(黄色)が一致していることを確認してください。

(A) セットライン(黄色)

注意

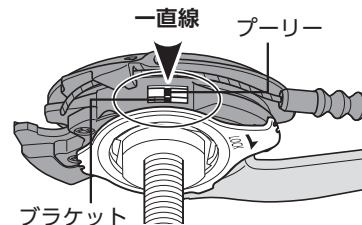
重なりが2/3以下の場合、ペダル踏み込み時にギアが上手く噛み合わず、異音やペダルが滑るような現象が発生する可能性があります。



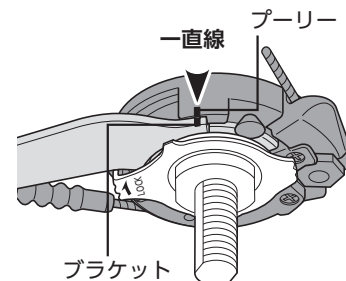
TECH TIPS

カセットジョイントのセットライン(黄色)は、上部と下部の2ヶ所にあります。見やすい方をご利用ください。

自転車を正立させた時

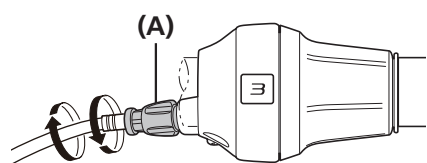


自転車を倒立させた時



セットライン (黄色) が一致していない場合

4

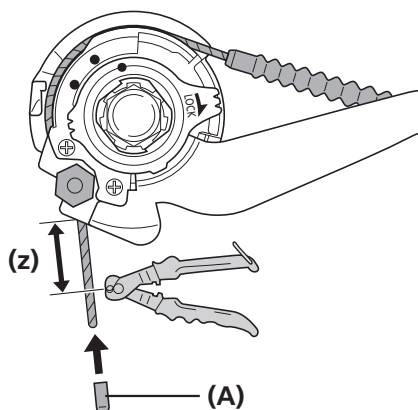


レボシフトレバーのケーブル調整ボルトを回して、セットラインを合わせてください。

レボシフトレバーをもう一度3→5へ、そして5→3に動かして、セットライン (黄色) が一致していることを再度確認してください。

(A) ケーブル調整ボルト

5



カセットジョイントの調整後、余分なインナーケーブルを切断します。

その後、インナーエンドキャップを取付けます。

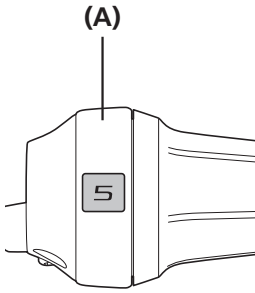
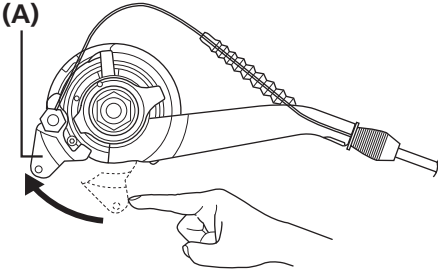
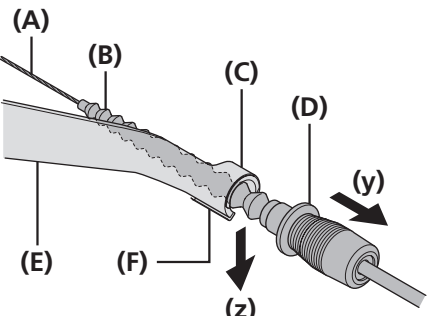
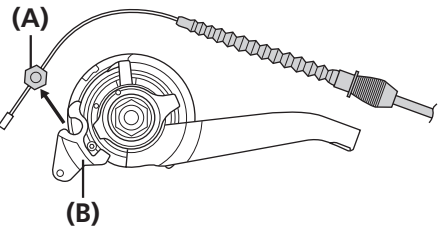
(z) 15~20 mm

(A) インナーエンドキャップ

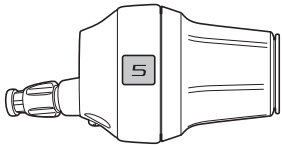
メンテナンス

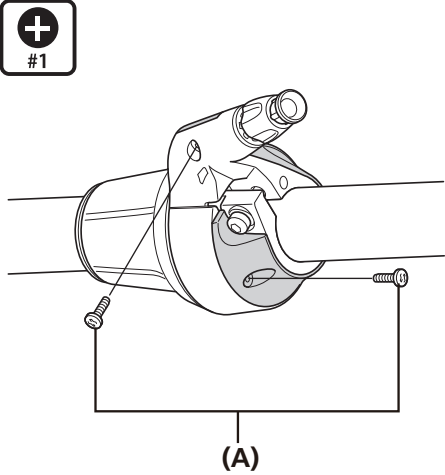
メンテナンス

■ フレームから後車輪を取外すときの変速用ケーブルのはずし方

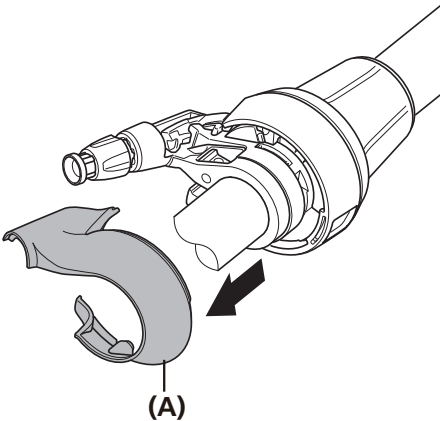
<p>1</p>		<p>SL-C7000-5を5にセットします。</p>	<p>(A) レボシフトレバー</p>
<p>2</p>		<p>プーリーのレバーを時計回りに押し てインナーケーブルをゆるめてくだ さい。また、この後の3・4の工程 はこの状態のまま作業してくださ い。</p>	<p>(A) プーリーのレバー</p>
<p>3</p>		<p>カセットジョイントの OUTER 受け から OUTER 受け体を引き抜きます (y)。 ブラケットのスリットからインナー ケーブルを取外します(z)。このと き、ラバーベローズが付いている場 合は、ラバーベローズを傷つけない よう注意してください。</p>	<p>(A) インナーケーブル (B) ラバーベローズ (C) OUTER 受け (D) OUTER 受け体 (E) ブラケット (F) スリット</p>
<p>4</p>		<p>カセットジョイントのプーリーか ら、インナー固定ボルトユニットを 取外します。</p>	<p>(A) インナー固定ボルトユニット (B) カセットジョイントのプー リー</p>
<p>注 意</p>			
<p>再度ケーブルを取付ける場合は、「カ セットジョイント側」の項目の9~12を 参照してください。</p>			
<p>5</p>	<p>車輪を取り外します。</p>		

■ インナーケーブルの交換

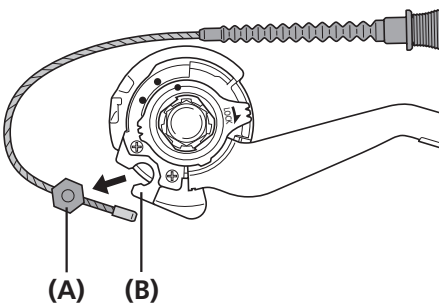
1		SL-C7000-5を5にセットします。
----------	---	----------------------

2		カバー取付けネジをゆるめます。
----------	---	-----------------

(A) カバー取付けネジ

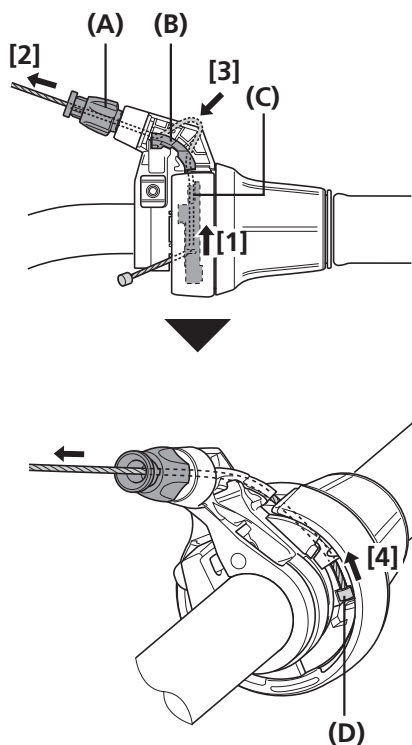
3		カバーを取外します。
----------	---	------------

(A) カバー

4		カセットジョイントのプーリーから、インナー固定ボルトユニットを取外します。
----------	---	---------------------------------------

(A) インナー固定ボルトユニット
(B) カセットジョイントのプーリー

5



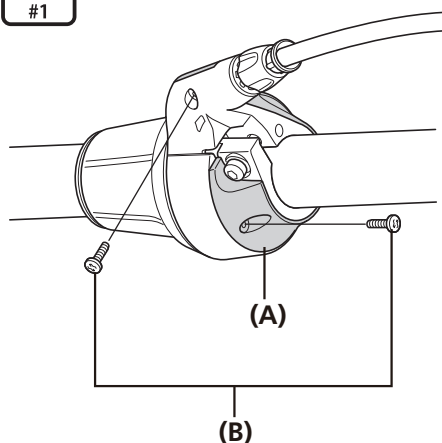
インナーケーブルを巻取り体の穴から、ケーブル調整ボルトの穴に通します。

その後、インナーケーブルをケーブルガイドの溝に沿わせます。

次にインナーケーブルを引張り、インナーケーブルのタイコを巻取り体の凹部に入れます。

- (A) ケーブル調整ボルトの穴
- (B) ケーブルガイドの溝
- (C) 巻取り体の穴
- (D) 巻取り体の凹

6



カバーをカバー取付けネジで固定します。

- (A) カバー
- (B) カバー取付けネジ

締付けトルク



0.1 - 0.25 N·m

■ 内部一式ユニットのオイルメンテナンス

製品の性能を維持するために、使用開始から2年間に一度（頻繁に乗車される場合は5,000 kmごと）を目安に、販売店または代理店で、内部のグリスアップなどのメンテナンスを推奨します。またメンテナンスの際は、シマノ内装ハブ専用グリスまたは、オイルキットを推奨します。専用グリス・オイルキットを使用されない場合、変速機が正常に作動しない等のトラブルの原因となる可能性があります。

(A) WBメンテナンスオイルセット (Y00298010)



(A)

1



メンテナンスオイルを容器に95 mmの高さまで入れます。

(z) 95 mm

2



図のように内部ユニットを左側からリングギアユニット1までオイルに浸します。

(z) リングギアユニット1

3



約90秒間、内部ユニットをオイルに浸します。

4



内部ユニットを取出します。

5



約60秒間、余分なオイルをきります。

6



その後、ハブを組立てます。



製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口

☎ 0570-031961 Fax. 072-243-7847

株式会社 **シマノ**

〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地